

電気を安全に安定してお届けする。 当たり前なことだけど、 それが私たちの変わらない思いです。

お客さまへの奉仕を第一に考える。
そこから私たちの仕事が始まります。

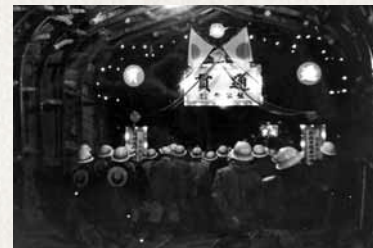


初代社長
太田垣 士郎

関西電力の創業間もない1951年、初代社長、太田垣士郎は「前垂れがけの精神」を提唱しました。それは大阪商法の精神を受け継ぎ、真の民間企業として「お客さまへの奉仕を第一に考える」という思いをあらわしたものです。この精神は1964年に策定された「関電サービスの確立」の中で、企業理念として凝縮されました。

〈関電サービスの確立〉 (1964年社達)

- ほ 豊富・良質・低廉な電気で需要家に奉仕する
- ま 真心のこもったサービスに全力を尽くす
- ち 地域社会の発展、繁栄に貢献する



1958年2月、
くろよん最大の難工事、関電トンネルが貫通。

不可能といわれた、くろよん建設。
完成させたのは、電力供給への強い使命感でした。

半世紀前、戦後の復興期にあった日本の社会は、慢性的な電力不足に悩まされていました。そこでどうしても必要だったのが、日本一深い峡谷に豊富な水量を抱えた黒部川での水力発電でした。しかし、厳しい自然条件が人の侵入をかたく拒みます。不可能とさえいわれた通称くろよん(黒部ダム/黒部川第四発電所)。7年の歳月と、延べ1,000万人の労力を投じた大プロジェクトを実現させたのは、「なんとしても電気をお届けしなければならない」という強い思いでした。



1962年8月、
黒部川第四発電所3号発電機の運転を開始。



阪神・淡路大震災時の
復旧作業

被災地に1日も早く明かりを。
その使命に全社一丸となりました。

1995年1月17日、マグニチュード7.2の「阪神・淡路大震災」が発生。あらゆるインフラが破壊され、約260万軒が停電するなど、電力設備も壊滅的な被害を被りました。関西電力はただちに非常災害対策本部を設置し、応急復旧に取り組みました。瓦礫の中を奔走する、不眠不休の作業です。全国の電力会社や協力会社の応援がありました。お客さまの叱咤激励がありました。その甲斐あって地震発生から153時間後の1月23日、被災地全域への応急送電が完了。明かりが灯る街を見て、お客さまから「ありがとう」の言葉をたくさんいただきました。このとき、全社が一丸となって困難に挑んだ経験は、決して忘れてはならない貴重な財産となりました。



倒壊した阪神高速道路



安定供給と低炭素社会の実現。
つねに時代に応じた役目を果たしていきます。

エネルギーを取り巻く環境は刻々と変化していますが、お客さまのもとに電気を安全に安定してお届けするという私たちの使命は変わりません。また地球温暖化防止が緊急の課題となっている中で、環境と関わり深い事業者として全社をあげてエネルギーの低炭素化に挑んでいます。これからも関西電力は、どのような困難な状況でも、お客さまや地域社会の発展のためにお役に立ち続けるという創業以来の使命のもとに、果たすべき課題に取り組んでいきます。

関西電力グループ 経営ビジョン

エネルギーをコアにくらしの基盤となる領域において
「お客さま満足No.1企業」を目指す

グループとしての成長を図る

最高のサービスの
お届け

企業としての
社会的責任の全う

従業員一人ひとりの力をお客さまの
喜びにつなげる

関西電力グループ CSR行動憲章

CSR行動原則

1. 商品・サービスの安全かつ安定的なお届け
2. 環境問題への先進的な取り組み
3. 地域社会の発展に向けた積極的な貢献
4. 人権の尊重と良好な職場環境の構築
5. 透明性の高い開かれた事業活動
6. コンプライアンスの徹底